



# 福井県現代俳句協会 会報

第41号

令和4年2月

発行：福井県現代俳句協会事務局

福井県福井市田原2-19-1願照寺内

## 会長挨拶 中内 亮玄

昨年に引き続き、苦言を呈したい。

会費無料の件である。

確かに現代俳句協会の会員は、現在、約5千人にまで激減した。だが、その一番の理由は会員の高齢による自然減であり、これは防ぐことができない。

また、不安定な雇用形態の増加、SNS等を介しての人間関係、ゲームなどでいくらでも暇を潰せる時代ともなり、つまり社会の変化によつて、若者の新規加入者も多くは見込めないのが現実だ。

そんな中、現代俳句協会は魅力的な活動を精力的に行つてゐる。中央の役員方はもとより、全国の会員の皆さんの献身的な努力によるものであり、ボランティア精神の賜物である。（これにも問題はある）若い世代の会員が増えないのは、この取り組みを知らないからであり、まずは知つてもらうことが肝要。だから、入会金も会費も無料にして、タダで本も読んでもらい、知つてもらうことが第一、という意見は十分に理解できる。

しかし、自身が二十代だったら、と想像して頂きたい。「無料だから一度試しに入つて『らん』と誘われる。本を開けば様々な試みがあることを知る。若者にとっての目玉は「兜太現代俳句新人賞」だろう。魅力的な大会だと思う。そして、数年で気づくはずだ。「これは、協会に入つていなくていいんじゃないか」と。なぜなら、新人賞も、評論賞も、協会最高の賞である現代俳句大賞すら協会に入らなくても貰えるし、全国大会もインターネット句会も、会員でなくても参加できる。それなのに30歳になれば会費を払わなければならない。なぜか？

さらに、長年いるとボランティアで仕事をさせられる。一体、会員であるメリットは何だろうか。

これは、すでに3年前に本部へ提出したものだ。○新人賞の参加資格を会員に限ること。

○そのかわり応募料を取らないこと。

たつたこれだけで、「会員になる意味が生まれる」と強く進言した。これこそ50歳以下の会員増加の良案だと今でも思つてゐる。

2千円×50名、10万円の応募料など意味がない。会員が一人増えれば、その年会費は5名分の応

募料と同額、例えば、賞に参加したい者10人が1年間入会しただけでも10万円だ。さらに、会費は応募料と違い、それから毎年徴収される。実際、新人賞を受賞しながら協会に入らなかつた人もいると聞く。義理人情が通用しない者ではなく、協会に入りお金を払つてゐる若者こそ大切にするべきだ。（ただ、協会も役所のようで人情味を感じないことがあるのでお互い様ではある）協会に入会してでも参加したいと思わせる新人賞にするためには、周知徹底、応募無料、副賞を豪華に（句集は魅力が薄い）、かつ選考を厳しくして、賞の権威を更に上げることに努めたい。

その後も、会費を納めて努力し続けた者には、原稿依頼などが来て、次第に原稿料を頂ける作家ともなれる（図書券一枚でもいい）。そんな風に道が拓かれる、「頑張れば頑張つただけ良いことがある」協会ならば、その後、本人が会費を払つてでも続けたくなるだろう。努力した結果、ボランティアが増え、奉仕が増え、では辛い。活動そのもの、参加することに価値を見出しているのは自分たちが主観的に活動でいる都會の若者ばかり。地方のどこで若者が入会しているのか？（仕事と言えば、G H O C、講師団が考案されて期待したが、その仕事は実力や実績ではなく、クジ引き「エクセルの抽選」で決定すると聞いて唖然とした。仕事の種類にもよるだろうが・・・）

もしくは正反対に、会員を自然減で千人程度にまで絞つてエリート集団化してもいい。内部への会員増ではなく外部集客を狙うのなら話は別だ。現在のように誰でも入れる協会ではなく、最低、句集を1冊出さなければ会員になれない、などの縛りがあれば、新人賞の副賞、句集出版は大きな意味を持つ。基本的に、会員になれない仕組みに変えれば、逆に、会員になれる事の意味が生まれ、会員になるステップとして新人賞を目指す若者も生まれてくる事だろう。それなら一般を対象として幅広く公募した方がいい。話を戻す。

無料にして若者に知つてもらつて、知つた結果、入らなくとも問題ないことを知る、それでは何の意味もない。ダンピングとしても成立していない。過ちては改まるに憚ることなかれ。

本日、金子兜太師祥月命日。南無阿弥陀仏

## 令和3年度 事業報告

| 日時      | 行事                 | 備考 |
|---------|--------------------|----|
| 4月 29日  | 北陸協議会              | 中止 |
| 5月 9日   | 第30回記念 北陸現代俳句大会表彰式 | 福井 |
| 同日      | 役員会(反省会)           | 中止 |
| 9月 未定   | 第6回 福井県現代俳句秋季大会    | 通信 |
| 同日      | 福井県現代俳句協会懇親会       | 中止 |
|         | 北陸協議会 石川           | 中止 |
| 10月 30日 | 現代俳句協会全国大会         | 中止 |
| 11月 3日  | 役員会                |    |
| 1月      | 福井県文化協議会           | 中止 |
| 2月 26日  | 福井県現代俳句協会 総会 アオッサ  |    |
|         | 同日 北陸大会拡大役員会(反省会)  |    |
| 3月 26日  | 現代俳句協会 通常総会        | 東京 |

## 令和4年度 事業計画

| 日時       | 行事              | 備考 |
|----------|-----------------|----|
| 4月 29日   | 北陸協議会           | 金沢 |
| 5月 (28日) | 第5回 福井県現代俳句春季大会 | 福井 |
| 9月 (10日) | 第6回 福井県現代俳句秋季大会 |    |
|          | 同日県懇親会          |    |
| 未定       | 北陸協議会           | 金沢 |
| 11月 12日  | 現代俳句協会全国大会      | 福岡 |
|          | 福井県役員会          |    |
| 1月       | 福井県文化協議会        |    |
| 2月 ~3月   | 福井県現代俳句協会 総会    |    |
| 3月       | 現代俳句協会 通常総会     | 東京 |



## 役員挨拶

一年を振り返つて、

令和2年（昨年度）

### 第5回福井県現代俳句協会賞

長年の俳句実作、俳句探求に加え、地元越前市では人材育成に尽力し、また副会長として福井県現代俳句協会を支えている小山柴門氏が受賞しました。

### 小山 柴門



### 会計



### 山田 富裕

会員の皆様お変わりありませんか。会えなくなつて久しくて次にお会いしても

「何方だっけ」と言いかねぬ程の老耄を自覺するようになりました。もはやコロナ禍について云々することは止めましょう。

大変な中で北陸現代俳句大会が、通信制とは申せ活発に且つ成功裏に行えたことは、北陸ブロックの現代俳句の皆様のご尽力と、就中福井県現代俳句協会会长の中内亮玄様の陰に陽の非常なる努力の賜物と感謝しています。

会員の皆様お変わりありませんか。会えなくなつて久しくて次にお会いしても「何方だっけ」と言いかねぬ程の老耄を自覺するようになりました。もはやコロナ禍について云々することは止めましょう。

大変な中で北陸現代俳句大会が、通信制とは申せ活発に且つ成功裏に行えたことは、北陸ブロックの現代俳句の皆様のご尽力と、就中福井県現代俳句協会会长の中内亮玄様の陰に陽の非常なる努力の賜物と感謝しています。

長年の俳句実作、俳句探求に加え、地元越前市では人材育成に尽力し、また副会長として福井県現代俳句協会を支えている小山柴門氏が受賞しました。

昨年度は、福井県現代俳句協会賞を頂戴し、その時ご挨拶でも申し上げた通り「私ごときが頂いてよいのか」とお伝えしたのは、大した実績もなく、表彰とは縁のない身でしたので、些か驚きもし、申し訳ない気持ちでした。然し乍ら会長はじめ会員の皆々様のお気持ちでしたのです。有難くここで改めて御礼申し上げま

この一年、やはりコロナ禍責めで、せつかくの大会も出来なかつた事が一番の悔いが残りましたかね。会長様が全部自分で片づけた様なことで、大変だったかと思いました。やつとこの頃、全国でも

集まつて意見を出し合い成長するものだい二年であつたとと思う。俳句は座の文学、力を入れていたのか不思議です。今少し落ち着いた世の中です。

### 幹事（監査）



### 前川 康子

今年はコロナウイルス感染拡大が取り沙汰され、色々な行事や催しが中止や延期となりました。この未曾有の事態も何とか厳しい自粛生活で抑えることが出来つつあります。長い巣籠り生活の中、北陸現代俳句大会、秋季県大会とも、中内会長の多大なるご尽力により素晴らしい誌上大会が展開されました。私はお手伝いも出来ず、その成果に心から敬意

俳句と言えば、やはり現代俳句だと思います。三百年も前から新味の追求、不易と流行を探りつづ「旅」を続けた人を

### 幹事長

### 塩谷美津子



### 春木 美智子



コロナ、コロナで明け暮れる日々、第三〇回記念北陸現代俳句大会に向か、会長は講演の先生や各県の方々との打ち合

わせやら大変な労力と気配り、ご苦労された事と思います。それが出来ず大変残念なことでした。秋季大会も中止となりましたが、通信制で宇多喜代子先生の特

別の選を頂けたことは、大変良かったと思います。これも会長のお骨折りの賜物だと思います。細かく行き届いたご配慮、どなたも出来る事ではありません。本当に大変です。コロナも落ち着いてくれることを願いつつ、以前のような大会が早くできますことを祈るのみです。

を表し、感謝申し上げます。

残念なことに、北陸大会に神野紗希先生と会長との対談をお聞き出来なかつた事、拝顔を楽しみにしていた私たちには心残りでした。

俳句の勉強の場は、句会参加だと聞いております。また若い人に参加を呼びかけ、今後の活性化に繋げたいものです。

## 幹事



平和な日常生活の中、俳句を学ぶ心構え、仲間との繋がりを大切に、明るく生きていきたいです。

## 新入会員募集

20歳代（県会費無料は今だけです）  
入会金・年会費・福井県地区年会費  
全額免除

30歳代 入会金無料！

年会費3千円 福井県会費0円  
40歳代 入会金無料！

年会費1万円 福井県会費2千円  
50歳代～入会金5千円

年会費1万円 福井県会費2千円  
山田富裕まで (0779-88-3327)

### 福井県現代俳句協会 総会

令和3年3月27日(土)午前十時

出席者三十二名

☆物故者への默祷 物故者 石本志明

☆会計 会計監査報告

☆令和3年の年間行事および第三回記念北陸

現代俳句大会に向けての準備 協力について

参加者32名 投句218句

ついで今まで入会金・会費等全て払っている  
現在の会員の皆様へのお詫びと、無料化の請

7名の合計点数で競った。良くも悪くも1点

教職を去り、武生現代俳句会の前身の武

生南公民館現代俳句講座を私に託し、そ

の後（故）吉田透思朗師に師事して先生

のお傍にあって、私の出来る限りの県俳

句界の仕事を委託されその責務を全う

すべく克に勉励の最中にあります。今で

は寺山修司の角川文庫の「家出のすすめ」

を読み返している次第です。

【北陸現代俳句大賞】

圧倒的大差 44点 福井県中山 慶子

副賞・太賞認定証（桐箱入り純金製1g）

【福井県議会賞】 33点

【福井市長賞】 33点 若林 園枝

【福井市教育委員会賞】 28点 松島 可奈

以上、副賞・銀の耳かき

【二句賞】

地 だんまりを形にすれば大海鼠 柄谷 せつ

人 死者数を棒読みして寒の雨 中山 慶子

【入賞】 合計27点以上

水上啓治 塩谷美津子 山田富裕 横川一子

小林史於 前川康子

副賞・神野紗希サイン入り句集

【佳作】 合計21点以上 中野 慶子

副賞・神野紗希サイン入り日めくり

【奨励賞】 多くの作品を詠まれた方

江守美千代 村田淑子 津田道代 中田良一

藤坪憲雄 小山柴門 佐藤節子 山本正雄

山下博 副賞・佳作に同じ

【第6回福井県現代俳句秋季大会】

令和3年9月18日結果発表（通信制）

参加者32名 投句218句

特別選者の宇多喜代子先生より、当協会へ寄付を賜りました。先生のお気遣いに福井県現代俳句協会員一同、重ね重ね、御礼申し上げます。

に再入会して住所も大阪に変更した異色の人だった。二、三年で頭角を現し再び「新人賞」候補に挙げられたが辞退して、名を「麻生良」と改名して、海程海程を去つた異色の人だった。偉大な俳人だったが、主人の難病の介護の為

の作品が多い大会となり、2点以上を佳作、3点以上を入選とした。

コロナにより、通信制の大会となってしまったが、宇多喜代子先生の厚情により、充実した大会となつた。一同、心から感謝申し上げます。

特選（宇多喜代子直筆色紙）5点

端居して記憶の底へもぐり込む 中山 慶子

謝れば済む事なれど山椒の実 山田 富裕

サーファーは北斎ほどの波を持つ 高石まゆみ

水落し福井平野の風入れる 高石まゆみ

空缶はちらろ一四分の闇 横川 一子

空刀魚焼く海の痛みを聴きながら 塩谷美津子

霧の街哲学的と思ひけり 塩谷美津子

ガラス拭く僅かな涼気見えてくる 河口 花芯

遠くなる昭和 八月の風灑む 田中 哲夫

露草や胸中にある花ことば 中田 良一

ストローで吸いあげてみた話し 久保ふみ子

むりやりに背筋を正し炎天へ 西又 利子

かなかなや仮間に生きる少年兵 前川 康子

満員の紫陽花ゆるやかに錆びて 松島 可奈

秋霜や句集に偲ぶ師の姿 佐藤 節子

夏草や親しき人の住居跡 田島 恵子

宇多喜代子特選 松島 可奈

枝涼しげ花涼しげに百日紅 中内 亮玄

| 令和三年自選代表句            |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1 空缶はちちら一匹分の闇        | 塩谷美津子             |
| 2 かいつぶり口の重たき北の街      | 村田淑子              |
| 3 寒村の上手のにぎわい曼殊沙華     | 白崎寿美子             |
| 4 端居して記憶の底へもぐり込む     | 中山慶子              |
| 5 かるがろと臓腑なき雛納ひけり     | 津田道代              |
| 6 わだかまり月に預けて鍋磨く      | 前川康子              |
| 7 買い出しにホワイトアウトの向こうへと | 石田秋桜              |
| 8 一人散歩文殊時雨に追いこされ     | 青木かよ子             |
| 9 蹤いた者もいただろ墓洗う       | 横川一子              |
| 10 出水跡昨日の地図が消えている    | 宮辺潔               |
| 11 街路樹の葉の裏返る暑さかな     | 春木美智子             |
| 12 片隅という安らぎもある残り菊    | 34 中年やふと秋雲のファルセット |
| 13 山の香を一品そえて岩魚宿      | 中村澄江              |
| 14 華やいだ駅は無人に残り柿      | 蜂谷純江              |
| 15 ひと粒の葡萄含めば地中海      | 吉嶋みな子             |
| 16 凌霄花わが青春のファムファタル   | 江守美千代             |
| 17 軍艦をときどき沈め水遊び      | 小山柴門              |
| 18 野良犬の大きな月を曳いてくる    | 高石まゆみ             |
| 19 待春や花の切手を買い揃え      | 佐々木潤子             |
| 20 からっぽの心が重いおぼろ月     | 平井啓治              |
| 21 コスモスや優しさ充電して帰る    | 西又利子              |
| 22 折り紙を使いはたして山眠る     | 柄谷せつ              |
| 23 向日葵がはじけそうなる長話     | 中田良一              |
| 24 春十年波打つ闇へレクイエム     | 石倉ひで子             |
| 25 虹消えて乳房に青き蛾の眼      | 中内亮玄              |

## ～予告広告～

★第31回☆  
北陸現代俳句大会  
富山大会！！

日時 令和5年(来年)

5月21日(土) 13時～

\*来年です！慌てないで！

\*従来通り、一作品の点数によって賞が決定します。

○会場 富山県内(未定)

○講師・懇親会等(未定)

○詳細決定後、各県にチラシ等が配布されます。

○来年の話ですが、今から作句して待ちましょう。

【令和3年の会員動向】(令和3年末日まで)  
◆祝！新入会員(再入会含む)

○江守和子(准会員入会者0人)  
◆会員退会者 田中和子 北湯敏一  
(准会員) 木幡嘉子 山内妙子 下牧政善  
△物故者 中村紀代美 合掌

事務局到着順(寄稿された方のみ掲載)

佐孝石画

中野慶子

田中哲夫

江守和子

河口花芯

森下増子

藤坪憲雄

惣次美都子

久保ふみ子

中山慶子

白崎寿美子

【後記】

今年も、コロナに翻弄された一年でした。

北陸現代俳句大会について、北陸協議会を開くこともできず、メールや郵便で少しずつ準備を整えてきた2年間でした。ただ、昨年3月に福井県協会では役員会を開くことができ、全員で団結して本番に望む体制ができたことは幸いでした。

ところが、大会の3週間前に福井県にコロナの「県独自の特別警報」が出ます。当然、チラシに記載してある通り、中止の場合には1週間前に全ての参加者に結果や賞状、副賞などを送らなければなりません。故に、2週間前には中止かどうかを判断し、もし中止の場合には封筒、配達の準備にからなければなりません。県の施設である会場に確認したところ、「今のところ一切、制限はないので大丈夫です」との返答を頂き、「では今から1週間様子を見て、それから決定しますよ」という段取りで相談をしていました。

ところが、なぜかその経過を見ることなく、役員より徹底した中止の声がその日のうちに挙がり、3週間も前に中止決定とせざるを得ませんでした。福井県だけの問題ではなく、「そんなに強引な中止決定は納得しかねる。一週間様子を見てから決めさせて欲しい」と抗議しましたが、高齢者が多く、講師の先生を都会からお呼びすることもあり、中止は苦渋の決断でした。あらゆる方面に、多大なる迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

結果論ではありますが、その後、福井県でも「県独自の緊急事態宣言」が出され、どちらにしても2週間前には中止の決定をせざるを得ませんでした。中止に対して残念、無念のお便り、また励ましのお便りなど多く寄せられましたが、関係各位には、簡単に中止にしたわけではない事情を汲んで頂きまして、何とぞお許しを頂きたいと思います。

今年こそは、皆さんと膝を交えて、笑顔で語りあえる日が来ることを願います。合掌